

第2回協議会だより 《北方部》

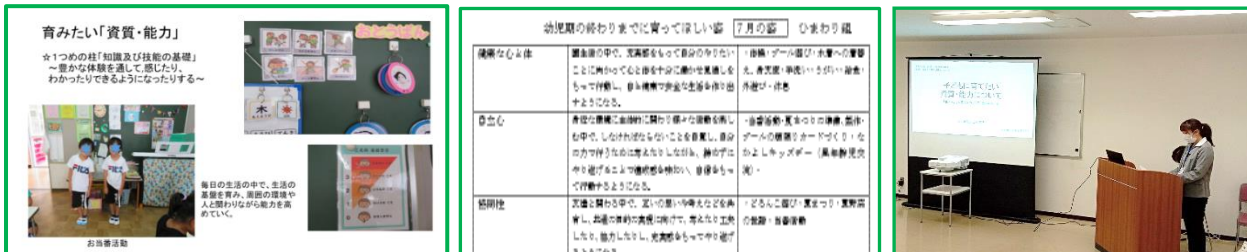


—令和4年10月18日（火）15:00～16:40 ニコニコこども館 3階研修室—

【実践発表】 富久山保育所

「子どもに育てたい資質・能力について」

～「生きる力」の基礎を培う保育・教育を考える～



富久山保育所では、日々の保育が保育所保育指針に明記されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）にどのように結びついているかを確認するために、項目ごとにチェックし、保育士の関りや環境構成の振り返りを行っていました。具体的には7月に実施した夏祭りやプール活動、異年齢児交流や当番活動が紹介されました。プール活動の中にも、準備体操やルールを守って遊ぶこと、上達するためのカード作りや廃材で船を作って浮かばせる等々、子どもたちが主体的に遊ぶ活動が複数の10の姿に結びついていることが明確になりました。

今回の実践事例は、保育士の関りや環境構成を充実していくための大切な視点となるものであり、各施設で共有し、小学校への円滑な接続に繋げてほしいと感じました。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ 富久山保育所の発表について

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を表にしてチェックしたことで、日々の保育で何が育まれているか明確になり、先を見据えた保育であると感じました。
- ・様々な活動や経験を積み重ねることで、自発性や感性等が育まれることを再認識しました。

☆ 子どもに育てたい資質・能力について

- ・幼保での学びを小学校へ円滑に繋げ、小学校でも生活科を基盤とし教科に反映していきたい。
- ・子どもたちが自分たちで話し合い、解決していく力を身につけていくためにも、保育、教育者は子どもに寄り添い、より良い環境を構成することが大事である。

☆ 気になる子の捉え方と指導のあり方

- ・幼保との連携を深め就学時健診等を有効にして、就学先のクラス編成や就学児童のアプローチに配慮していく。気になる子どもだけではなく、周囲の子に対しても配慮が必要である。

《参加者からのアンケートから》

- ・今年度2回目の参加です。情報交換ができ、自分の悩みを共感してもらうことで明日への活力となります。（保育所：女）
- ・遊びを通して自分で考える機会が多ければ、授業でも興味を持って取り組むことがわかりました。幼保小の情報共有が重要です。（小学校：女）

「相互参観だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。